

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091600579		
法人名	有限会社 ベストライフ		
事業所名	グループホーム 東山の里 (さくら棟・なみき棟)		
所在地	〒830-0063 福岡県久留米市荒木町荒木1972番地18号 0942-26-0011		
自己評価作成日	平成24年7月23日	評価結果確定日	平成24年09月10日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=40
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27	093-582-0294	
訪問調査日	平成 24年08月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

建物は高台の閑静な住宅街に位置し、平屋でデッキに続く庭は野菜がのびのびと育っている。周りの環境は緑が豊富で四季折々を楽しむことが出来る。毎日の散歩を日課としています。「心こそ大切なれ」をモットーに、ご利用者の心を一番大切に生活の支援を日々心がけている。運営理念の「福祉・人権・環境・教育・平和」は皆平等の精神で地域社会に貢献できる介護施設を目指します。」を毎朝唱和し、地域密着サービスの趣旨をふまえ地域交流にも積極的に取り組むよう努めている。身寄りのない方、経済状況にあわせた低料金にも努め受け入れをしている。家庭的な雰囲気を作りご利用者と職員が一緒に生活を共にする環境をつくるよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

久留米市郊外の、桜並木の見事な古木が広がる隣接地に、平屋建て2ユニットのグループホーム「東山の里」がある。法人理念とモットーを掲げ、毎朝職員が、唱和し、理解して利用者一人ひとりの状態に合わせた介護サービスの取り組みは、利用者や家族の、深い信頼に繋がっている。主治医の隔週毎の往診と、看護師が常勤し、24時間の医療連携体制は、職員の細やかな見守りと合わせ、万全のものがある。町内会に加入し、利用者と職員は、地域の清掃、廃品回収、運動会、祭り等に参加し、地域の一員としての交流が始まっている。また、代表は、地域の高齢者や家族の心配事、悩み等の相談を受け、利用しやすい料金設定で、受け入れる体制を確立し、地域密着型グループホームとして、地域との信頼関係の構築も始まっている「東山の里」である。

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当するものに印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25.26.27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9.10.21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20.40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2.22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38.39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11.12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:32.33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念の地域社会に貢献できる介護施設、「心こそ大切なれ」のモットーを毎朝唱和し、地域密着サービスの学びの場を得て実践につなげるよう努めている。	利用者の尊厳を大切にし、その人らしい幸せな生活の実現を目指し、ホーム独自の理念である「心こそ大切なれ」を掲示し、毎朝唱和している。その理念を職員全員で共有し、日々のケア活動に活かす取組みを行なっている。
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議・回覧等で地域の行事を確認し、町内清掃、出前講座等積極的に参加、子供会の廃品回収に資源ゴミを出す。日課のように散歩に出かけ地域の方と挨拶をしたり、手づくりの笛や果物を頂いたりした事もある。	町内会に入り、回覧板などのやり取りで、地域の実情把握を行なっている。地域の行事やホームの行事を通じ、交流の輪が広がっている。また、ホーム周辺の散歩を通じて、挨拶を交わすなど、日常的な交流が生まれている。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議時に参加の民生委員、自治会長さんに利用者様の日常生活の様子を報告したり、地域の方の情報などをいただいている。	
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では多職種の方々から貴重な意見・情報をいただき、それをもとに職員会議等で話し合い、サービスの向上に努めている。	会議は関係者出席のもと、2ヶ月毎に開催し、ホームの運営状況、課題など幅広く、活発な意見交換が行われている。そこでの意見、提案、課題などが検討され、ホームの運営に反映できるよう努力をしている。
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議時、介護保険課、社会福祉協議会、保護課等と連携をとりながら指導を受けたり、相談を行なっている。	運営推進会議に地域包括支援センター、介護保険課職員の参加があり、ホームの実情やサービスの取組みに理解は得られている。日頃から行政窓口と連絡を取り、協力関係を築くように取り組んでいる。
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の鍵は日中、開錠している。帰宅願望の方や玄関まで行きドアを開けたり頻繁にされる方がおられるが、声かけをしたり、そのまま散歩に出たりして工夫している。	管理者と職員は、身体拘束廃止の研修に参加し、会議で職員に説明し、拘束が利用者に与える影響を理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、玄関の鍵は日中は開放し、自由に出入りが出来る環境である。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会等で学ぶ機会を計画したり、資料を随時、閲覧できるようにしている。外部研修等で学ぶ機会も設けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会等にて学ぶ機会を設けており、必要性がある時は、随時説明や関係者と連絡をとり活用できるように支援している。	現在、成年後見制度の活用を検討している利用者がいるため、関係機関と調整し、支援を行なっている。家族からの要望があれば、資料・パンフレットなどを準備し、いつでも活用支援できる体制となっている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明は書面をもって充分に行い説明を受けた旨のサインをいただき理解・納得を図っている。契約後も面会時や電話等にて不安や疑問点など尋ねるように努めている。		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常の面会、運営推進会議の際に要望等をお聞きしたり、意見箱を設置している。外部評価時に家族様にアンケートがあり、その評価なども反映させている。外部の苦情相談窓口を掲示紹介している。	意見箱の設置、運営推進会議への出席、「ホーム便り」や利用者の近況報告を綴った「お手紙」の定期発行を行なっている。それらを通じ、利用者、家族の意見・要望・提案など、ホームの運営に反映させる取組みが行なわれている。	家族が抱えている悩みや心配事など、家族間で話し合える環境づくりや、家族交流の輪を更に広げていく取組みを期待したい。
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング・勉強会・懇親会、随時職員の意見・要望などを聞き取り改善に努め、代表者へ報告し反映させている。	職員ミーティング、勉強会等の機会を捉え、全職員の意見を聴く取組みが行なわれている。管理者はそこで出された意見・要望・提案をホームの運営に反映させている。また、必要に応じて、個人面談への取組みも行なわれている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員とのコミュニケーションを大切に、随時相談出来るようにしており、職員が働きやすい環境作りを心がけている。雇用条件の整備に努めている。		
13	9	人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	性別・年齢・学歴・経験等関係なく採用している。職員一人ひとりの能力、行動力に合わせた勤務体制を考慮している。	職員の募集・採用は、年齢・性別・経験等の制限は設けていない。採用後は、経験に応じた、教育研修により、職員一人ひとりが能力を發揮し、生き生きと働ける環境を目指している。また、定年延長の措置がとられている。	
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権について学ぶ機会をもうけ、日々の業務の中で言葉遣い等、声かけ合いながら利用者様の尊厳を大切にするよう努めている。	利用者に対する人権を尊重する取組みとして、ホームの理念に明確に位置づけている。また、認知症高齢者への理解を中心に、接遇の研修や、日常業務のなかで人権意識の向上を図る取組みが行なわれている。	
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は随時ホームを訪れ利用者や職員と面会している。職員は月1回の内部研修、事業所は外部研修・講演会に積極的に参加出来る体制を作り知識・技術の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者・職員が研修に参加しやすい環境を整え、地域密着型サービスの生活圏域事業所交流会等で同業者と交流する機会を設けている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	代表者・看護師・ケアマネージャー・管理者は、利用者・家族の思いを大切にし入居前・入居後も要望・相談には親身に傾聴することに心がけている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前のアセスメントなどにおいて、充分ご本人・家族の状況を聞き取り、希望・要望等を考慮し信頼関係を築き上げる事に努めている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族の意向をお聞きしながら、今、必要としていることを見極め、適切な介護サービスの紹介にも努めている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の能力・生活層に応じて、調理の下準備・配膳、掃除・洗濯干し・洗濯たたみ、日常生活における作業等を職員と一緒にこなすように努めている。		
21		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族・知人の面会、外出・外泊がいつでも出来る環境を整えたり、行事に家族が参加出来るように案内状等を郵送したりして、利用者と家族の絆が途切れないように努力している。		
22	11	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の面会や、電話対応は随時行ない、遠方の家族に利用者の様子などをお知らせしたりして、本人の想いを大切にしていることを努めている。	利用者の高齢化で馴染みの関係作りが困難な状況であるが、家族の協力を得て、外泊、外出、外食、病院受診等に出かけるなど、馴染みの関係が途切れない支援が行なわれている。知人・友人の訪問も多い。	
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	散歩時に車椅子を押して散歩されたり、新聞を読み終えたら次の方に渡されたり、洗濯たたみが出来ない方の分をされたり、頂きものをおすそ分けしたりして交流している関係を見守りしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も入院先に面会に行ったり、家族の様子を伺ったり、その後の入居先の相談等の話も伺っている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時に本人の希望・意向を伺い、家族の意向も含めプランを作成し、家族にも協力してもらいながら努めている。	入居時に家族から利用者の生活暦、生活習慣など情報収集し、本人の思いや希望の把握を行ない、ケアプランに反映させている。日々の関わりのなかで一人ひとりの個性に合った支援を行なっている。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時や生活の中で利用者本人・家族・関係者等から話を聞き、把握に努めている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の希望や、有する力等を見極めながら、今日やりたいことや、ケアプランに挙げているリハビリ等を行い、現状の把握に努めている。		
28	13	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリングを行い、利用者のニーズに沿うような介護が出来るように、介護計画を作成している。	本人、家族の意向をもとに関係者が参加し、気付きや意見を反映しながら、具体的なケアプランを作成している。また、見直しは3ヶ月毎に実施されており、利用者の状態変化に応じ、その都度、介護計画の見直しが行なわれている。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録以外に、利用者の特別な様子、ケア方針、気づき等を支援経過に記録し、関わる職員が情報を共有しケアの実践と、介護計画の作成に反映している。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の支援が困難な場合は、病院受診同行や、必要な物品の買い物等は随時支援を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアで歌を唄いに来てもらったり、地域資源を活用することが出来るように努めている。		
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は本人、家族等の希望に応じ、当施設への往診(1回/2w)、又は他の病院受診や、家族の協力で受診をして頂き支援している。	利用者や家族の希望を聞きながら主治医を決め、訪問医療・歯科等の医療が受診できる支援がある。また、必要に応じて外来受診の同行も行なわれ、24時間提携医と連絡を取りながら、いつでも適切な対応ができる連携体制が整っている。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職・看護職が情報を共有し、利用者の希望等を取り入れ、安心して往診・受診・看護が受けられるように努めている。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関、利用者家族と連絡を行い、入院、入院中、退院の相互の関係が円滑になるように取り組んでいる。		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看護体制を整え、早い段階から本人・家族と話し合いを行い方針を定め、介護技術の向上に努め、主治医と連携をとりながら、看取り介護を始めている。	看取り介護の方針として、「対応指針」を作成し、事業所として「出来ること、出来ないこと」を明確にし、早い段階から家族への説明が行われ、関係者全員でターミナルケアの方針を共有し、マニュアルの整備や研修への取組みも行なわれている。昨年度、看取りを経験している。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを常備し、いつでも見れるようにしたり、勉強会において学ぶ機会を設ける。避難訓練等において応急手当の講習を取り入れ、実践力を向上させている。		
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協体制を築いている	避難訓練を年2回開催し全職員が訓練を行う。地域の方にも回覧で参加を呼びかけている。火災通報装置の連絡先に地域の方も登録していただき、協体制を築いている。	年2回定期的に、消防署協力のもと防災・避難訓練が実施され、地域住民の協力も得られている。その際、消火器やAEDの取扱い、救急救命等の訓練、研修も行なわれている。災害時に備えて、非常食、飲料水等の準備も整っている。	非常災害時に、廊下の突き当たりにある居室から、リビング、玄関(避難口)へ出ることがやや困難な状況。有効な避難方法の対策が望まれる。また、避難場所及び避難順路等の表示も期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スローガンの「心こそ大切なれ」は利用者様の心を大切にす意味であり、日頃から心掛けています。接遇は内外の学ぶ機会を得て実践に努めている。	管理者、職員は、利用者一人ひとりのプライドを傷つけないような声かけや誘導に徹し、利用者の尊厳を守りながら、日々の暮らしが穏やかで楽しくなるように努力を重ねている。また、個人情報の記録は、目に触れないような場所で保管されている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の要望等を常に聞き取るよう心がけ、家族とも相談しながら自己決定できるように配慮している。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全ての希望に添えてはいないが、その日の過ごし方をお聞きしたり、要望を取り入れて散歩、歩行訓練、立位訓練を行ったり柔軟に対応に努めている。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時に希望をお聞きしたり、アドバイスをしたり、入浴時の衣類の準備をしてもらったりして支援している。行事や誕生会などに希望により化粧などしていただいている。		
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	玉ねぎ・ジャガイモの皮むき・ごぼうのさがき、盛り付け等の手伝いをしてもらう。味付けのアドバイスをいただき工夫をしている。	食事は、利用者と職員が、料理の下拵え、味付け等を一緒に行っている光景は楽しい雰囲気である。利用者と職員が、同じテーブルで同じ物を食べる様子は、和やかな食事風景である。また、栄養バランス、彩り、季節感等、手作り感満載の食事を楽しめる支援が行なわれている。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量を記録し、本人の嗜好にも心がけ水分摂取に努める。牛乳の配達やヤクルト販売が定期的に訪問している。		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、本人に合ったケア方法を実施。本人・家族の希望にて訪問歯科を利用し治療やケアを行なう。訪問歯科医師等から口腔ケアについて学ぶ機会を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックシートにて24時間排泄管理を行い、できる限り座位の排泄を心がけ、誘導や声かけを行なう、ポータブルトイレの使用や2人介助も行なっている。	職員は、利用者一人ひとりの排泄パターンや習慣、リズムをもとに、早めの「声かけ」、「誘導」を行い、羞恥心に配慮した、トイレでの排泄に留意し、自立に向けた排泄の支援を行なっている。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時の水分摂取、散歩、体操、腹部のマッサージ等を行い運動に努める。本人の希望にて個別にヤクルト、ヨーグルト、牛乳の販売を利用している。		
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	各棟、隔日で入浴しており、どちらかで毎日入浴できるように体制を整え、希望や体調に合わせて対応している。入浴拒否者には、声かけなどで工夫を凝らしている。	利用者一人ひとりの「希望」や「体調」に合わせた入浴支援が行なわれている。入浴は一日おきとなっているが、2ユニットの利点を活かし、毎日でも入浴は可能となっている。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中・夜間のメリハリをつけて、レクリエーション・食事・おやつ等は声かけしてリビングに誘導、本人の希望にて休養もしていただく。就寝時間も本人の希望時間に副って休んでいただいている。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各棟に利用者の処方箋確認表を置き、職員が確認できる工夫をしている。利用者様の状態観察に努め、変化時はすぐ看護師に報告している。服薬・薬についての内部勉強会実施。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の希望や、力に応じて野菜の皮むき、牛蒡のささがき、盛り付け、洗濯物干し・たたみ・仕分け、新聞たたみ等の手伝い。嗜好品の購入依頼は随時行なっている。牛乳配達、ヤクルト販売にきていただく。		
51	21	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望・家族の希望に合わせ随時、外出していただいている。	本人の希望や体調に合わせて、ホーム周辺の桜並木を愛でながら、散歩するのが日課となっている。普段いけない場所へは、家族の協力を得て、花見や買いものなどの機会を捉え、出かけていけるよう支援している。	利用者の高齢化に伴い、年々外出機会が減少しているが、本人の暮らしへの意欲、自立を保つためにも出来るだけ戸外に出かけることは大切。家族やボランティアの協力を得て、外出機会を増やしていくことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族とも相談の上、お金の所持の方もおり、自販機にてジュースを購入されたり、お孫さんの面会時にお渡ししたりしている。		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を使用されたり、家族に連絡を取りたい時は、随時、対応している。		
54	2.2	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は常に清潔にし、利用していただいている。外回りも季節感を感じる事ができるし、ホーム内には職員が常に季節の野の花など飾りつけたり、月ごとの飾り付けに余念がない。庭に花・野菜を育て利用者と一緒に水やりや収穫を行なっている。	利用者が一日の多くの時間を過ごす共用空間は、余裕のあるスペースで、利用者、職員による季節が感じられる作品が展示され、温かく家庭的な雰囲気である。窓から眺める風景は、ホームの野菜畑があり、その向こう側には、見事な桜並木が眺められる等、利用者が居心地よく過ごせる共用空間である。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の工夫はないが、事務所が心地良くソファで横になられたり、隣の棟に様子を見にいかれて、しばらく過ごされたりしている。		
56	2.3	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に自宅から使い慣れた家具・置物・仏壇・宗派に係る物等馴染みの物を持参していただくなどしている。掲示物も本人の意向で掲示したりしている。	利用者一人ひとりの居室は、使い慣れた馴染みのものを持ちこんでもらい、自宅と違和感のない部屋作りとなっている。また、清潔で安全に配慮した居住環境で、居心地良く過ごせるよう工夫されている。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関入り口からバリアフリー、手すり、表示、物品の配置を工夫し、車椅子自走の訓練、歩行器の歩行訓練も各自行なっている。随時見守りは実施している。		